

# 魅力のある商店街を目指し まちづくり「蔵」を活用



白亜のしつこいと黒々と光るかわら屋根がまぶしい「蔵」が、100棟以上現存する江刺区市街地。かつて北上川交易で一時代を築いた商業のまちの面影が残ります。この「蔵」を生かした個性的なまちづくりで、商店街ににぎわいを呼び寄せた中町商店街があります。街路整備事業に奔走した、かつての同商店街会長に取り組みについて伺いました。

- ① 人でにぎわう蔵まち市
- ② 22年度本格オープンを目指す、屋台村の試み
- ③ ステンドグラスと石畳がおしゃれな歩行者専用道路「蔵町モール」
- ④ 中町商店街周辺の略図
- ⑤ 開放感あふれる中町商店街

## 「蔵の街並み」を生かし インパクトのあるまちづくりに挑戦

中町商店街の「蔵」を生かした街づくりのスタートは平成2年に行われた街路整備事業です。わたしは商店街でまちの変遷を肌身で感じてきましたので、「こういった街ができればいいな」との思いを常に持ち、販売を続けてきました。まちづくりに必要なものは「インパクトのあるまち」と「子どもとお年寄りが歩きやすい歩道」だと思っています。先に街路整備を行った商店街では、工事に伴って店舗の近代化を果たしたものの、個性が無い商店街に見えました。「このまちの売りは何だろう」と考えたときに、通りに残って

いる蔵に着目し和風の商店街が良いなと思っていました。後に黒壁ガラス館をつくることになる若い有志たちの「蔵を壊さないで欲しい」という要望とも合致し、目標は定まりました。整備事業では「蔵」のイメージに合わせて、商店だけではなく一般住宅も和風建築にし、色彩を統一するという「まちづくり協定」を結びました。中町まちづくり委員会を結成し、商人と一般の人との意識が同じになるように話し合いを繰り返しました。『みんなで納得して統一したい』という願いがありましたので。

もちろん委員会の話し合いには全員が参加できるわけではありません。それを補うために中町振興会の会長を務めた遠藤寿一郎さんが、熱心に広報紙を発行してくれたことも大きかったと思います。平成10年、民間有志が設立した櫛黒船が商店街に「ガラス館」をオープンさせると、観光客が押し寄せすごいにぎわいを見せました。商店には「冷たく見える」シャッターを禁止。歩道に関しては、両側を3・5メートルに拡張し、

電力会社へは電柱の位置調整や電線が道路を横切らないよう粘り強く交渉を行いました。最終的に12年かかりましたが、平成14年に全工事を終えました。「評判の良い通りができたなあ」と自負しています。また、同時期の川原町から中町を横切る東西の歩行者専用道路「蔵町モール」の完成も、市街地内の回遊とにぎわい創出に大きく貢献しています。

最近では、この蔵まちモールを活用したさまざまなイベントも定着してきました。年2回開催される「蔵まち市」は80の出店が集まります。3月11月末まで毎週水曜日に開催している「まちなか水曜日」は常に40店ぐらいの出店があります。出店料を取らないこともあり、フリーマーケットなどで気軽にに出店できるのが良かったと思います。また、来年から「屋台村」を開設しようと、9月と10月に仮オープンをしました。天気の悪い日は大変なにぎわいでした。来年はぜひ通年でやればよいですね。

商店街のお客さんを見ると自転車で来る人が多いようです。街なかに駐車スペースがあれば、より気軽に来てもらえるのかなと思います。今後は藤原の郷から街なかへのルート開発にも期待しています。

### ●(株)八百清 代表取締役 依田 静児 さん(75) ＝江刺区中町＝

昭和9年生まれ。県立岩谷堂高校から東京簿記学校に進む。卒業後、中町で明治7年から続く豆腐製造販売の家業を継ぐ。

